

きになる梨情報

みんなで進めよう
茨城農業改革

第58号 平成29年6月17日 県南農林事務所 経営・普及部門(土浦地域農業改良普及センター)

6月16日(金)の16時頃から、管内各地で雨まじりの降雹があり、地域によっては20分以上降り続けました。

葉の破れ、果実の打撲などの被害が見られます。損傷の状況を良く観察し、以下を参考に事後対策を徹底しましょう。

1 被害果実の摘果

- 果実の被害程度は、降雹直後では判断しにくい場合があります。極端に被害程度の重い果実以外は、無理に摘果を急がず、数日経過して被害程度が判別しやすくなってから、丁寧に実施しましょう。
- 被害面(特に上面)をよく観察しながら丁寧に摘果し、果皮のかすり傷等、比較的軽い傷のものは、なるべく残して、着果数を確保しましょう。
- 果軸の損傷はコルク化し、軸折れの原因となりやすい(特に豊水)ので注意しましょう。

2 新梢等の管理

- 主枝、垂主枝、予備枝先端の新梢が欠損した場合は、新たな新梢発生・伸長を待ち、育成します。葉面積確保のため、枝や新梢の切り戻しは避けましょう。

3 薬剤防除

- 枝葉の損傷部は病気が発生しやすいため、被害を受けた場合は、殺菌剤を散布して病気の予防に努めます。

※薬剤の選択にあたっては、以下に気を付けましょう。

- ① 昨年の収穫後からの薬剤散布履歴を確認し、年間使用回数に十分に注意する。
- ② 収穫前日数に注意し、特にハウスや雨よけのナシほ場が近くにある場合は、収穫前日数の長い薬剤は避ける。
- ③ 前回の薬剤散布から日数が経っていない場合、近接散布にならないように気をつける。
- ④ 比較的薬害の発生しにくい薬剤を選ぶとともに、薬害の発生しにくい条件で散布する。

- 枝葉の再伸長があった場合、その後のアブラムシ等の発生に注意します。